

[小ばなしシリーズ] 小ばなし1

年 組 氏名

このシリーズでは、江戸時代の笑話(小ばなし)を紹介します。江戸時代の笑話には、当時の世の中の様子や人々の生活、人情を題材にしたものが多く、笑えるだけでなく、当時のいろいろなことを知ることができます。

学習の目的は二つです。

ひとつは、この話を読んで、「どこがどんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」を文章で書くことです。どうしておもしろいのか、笑えるのかということを説明することは『書く力』を伸ばすことにつながります。

もう一つは、声に出して読むことです。落語家になったつもりで、声に出して読んでみましょう。そして読むときは登場人物になりきって、もしあなたのその話を聞いている人がいたら、その人を笑わすつもりで読んでみましょう。

小ばなしを楽しみながら、書く力と読む力の両方を身に付けましょう。

<課題>

次の小ばなしを読んで、

①原稿用紙に「どこがどんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」を説明する文章を書きましょう。

②読み方を工夫して、その話を聞いている人がいたら、その人が小ばなしのおもしろさに笑ってしまうような読み方を練習しましょう。

寒い故郷

くまさん 「おまえの故郷は、たいそう寒いんだって？」

はちべえ 「そりゃあ、もう、寒いなんてもんじゃないね」

くまさん 「どんなだか、おしえてくれよ」

はちべえ 「飯を食うときなんか、箸(はし)を膳(ぜん)の上に置くと、あっとうまに凍りついちまって、もう、飯を食うことができねえんだ」

くまさん 「それはすごい寒さだな」

はちべえ 「それだけじゃないよ。話をしても、話しているそばから、話が壁に凍りついちまうんだ」

し くまさん 「それじゃあ、春になって、解けた

〔小ばなしシリーズ〕 小ばなし1

年 組 氏名

学習するみなさんへ：

「どこがどんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」をわかりやすく説明することができましたか。いろんな文章を書くときには、「相手にわかりやすく」をいつも心がけるようにしましょう。原稿用紙に書いた自分の文章を友だちと読みあって、書き方を比べあったりするののもよい学習になります。

また、聞いている人が小ばなしのおもしろさを感じるような読み方を工夫することは、相手にわかりやすく話すことにつながりますよ。

面白さを説明するときのポイント

この小ばなしが「どんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」を説明しようとするときには、次のことがらがポイントになります。あなたが書いた文章にこれらのポイントが入っているかどうか確かめましょう。

【ポイント】

● はちべえが故郷の寒さを問われて、話す言葉まで壁に凍りついてしまふ、と「ほら」を吹くところ。

● はちべえが「それだけじゃないよ。話をしているも、話しているそばから、話が壁に凍りついちゃうんだ」と、実際にはあり得ない話をしているのに、くまさんがそれを信じて「それじゃあ、春になって、解けましたら、さぞかしやかましいだろう？」と感心しながら聞いているところ。

読み方のポイント

○ 登場人物によって声を変える工夫をする。
○ 会話の部分はリズムよく、実際に会話しているように話す。

[小ばなしシリーズ] 小ばなし2

年 組 氏名

このシリーズでは、江戸時代の笑話(小ばなし)を紹介します。江戸時代の笑話には、当時の世の中の様子や人々の生活、人情を題材にしたものが多く、笑えるだけでなく、当時のいろいろなことを知ることができます。

学習の目的は二つです。

ひとつは、この話を読んで、「どこがどんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」を文章で書くことです。どうしておもしろいのか、笑えるのかということを説明することは『書く力』を伸ばすことにつながります。

もう一つは、声に出して読むことです。落語家になったつもりで、声に出して読んでみましょう。そして読むときは登場人物になりきって、もしあなたのその話を聞いている人がいたら、その人を笑わすつもりで読んでみましょう。

小ばなしを楽しみながら、書く力と読む力の両方を身に付けましょう。

<課題>

次の小ばなしを読んで、

①原稿用紙に「どこがどんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」を説明する文章を書きましょう。

②読み方を工夫して、その話を聞いている人がいたら、その人が小ばなしのおもしろさに笑ってしまうような読み方を練習しましょう。

で 衛 よ し 話 つ

(注)小僧

商店で使われている少年の店員のこと

小僧「ところでだんな様。となりの五郎兵 さんは、よく他人のうわさ話をする人 すなあ」	だんな「うん、うん、それはいい心がけだ」	小僧「はい、私は他人のうわさ話をしない うにと、いつも心がけています」	だんな「おまえはたいした人間だ。世間のや らはどいつもこいつも、他人のうわさ ばかりしているが、おまえはけっして ない。えらいもんだ」	うわさ話
--	----------------------	--	--	------

[小ばなしシリーズ] 小ばなし2

年 組 氏名

学習するみなさんへ：

「どこがどんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」をわかりやすく説明することができましたか。いろいろな文章を書くときには、「相手にわかりやすく」をいつも心がけるようにしましょう。原稿用紙に書いた自分の文章を友だちと読みあって、書き方を比べあったりするの也不错い学習になります。

また、聞いている人が小ばなしのおもしろさを感じるような読み方を工夫することは、相手にわかりやすく話すことにつながりますよ。

面白さを説明するときのポイント

この小ばなしが「どんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」を説明しようとするときには、次のことがらがポイントになります。あなたが書いた文章にこれらのポイントが入っているかどうか確かめましょう。

【ポイント】

● だんなが、「人のうわさ話をしないのは偉い」と小僧をほめたところなのに、小僧が「ところどころでだんな様。となりの五郎兵衛さんは、よく他人のうわさ話をする人ですなあ」と五郎兵衛さんのうわさ話をするところ。

読み方のポイント

○ 登場人物によって声を変える工夫をする。
○ 会話の部分はリズムよく、実際に会話しているように話す。

[小ばなしシリーズ] 小ばなし3

年 組 氏名

このシリーズでは、江戸時代の笑話(小ばなし)を紹介します。江戸時代の笑話には、当時の世の中の様子や人々の生活、人情を題材にしたものが多く、笑えるだけでなく、当時のいろいろなことを知ることができます。

学習の目的は二つです。

ひとつは、この話を読んで、「どこがどんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」を文章で書くことです。どうしておもしろいのか、笑えるのかということを説明することは『書く力』を伸ばすことにつながります。

もう一つは、声に出して読むことです。落語家になったつもりで、声に出して読んでみましょう。そして読むときは登場人物になりきって、もしあなたのその話を聞いている人がいたら、その人を笑わすつもりで読んでみましょう。

小ばなしを楽しみながら、書く力と読む力の両方を身に付けましょう。

<課題>

次の小ばなしを読んで、

①原稿用紙に「どこがどんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」を説明する文章を書きましょう。

②読み方を工夫して、その話を聞いている人がいたら、その人が小ばなしのおもしろさに笑ってしまうような読み方を練習しましょう。

い

どろぼうはどこ？

たいへん足の速い男が、どろぼうを追

かけている途中で、友だちと出会いまし

た。

友だち 「そんなに急いで、どこへいくんだ？」

男 「今、どろぼうを追いかけているんだ」

友だち 「どろぼう？どろぼうなんかいねえじゃ

ねえか」

男

「あとからくる」

[小ばなしシリーズ] 小ばなし3

年 組 氏名

学習するみなさんへ：

「どこがどんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」をわかりやすく説明することができましたか。いろんな文章を書くときには、「相手にわかりやすく」をいつも心がけるようにしましょう。原稿用紙に書いた自分の文章を友だちと読みあって、書き方を比べあったりするの也不错い学習になります。

また、聞いている人が小ばなしのおもしろさを感じるような読み方を工夫することは、相手にわかりやすく話すことにつながりますよ。

面白さを説明するときのポイント

この小ばなしが「どんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」を説明しようとするときには、次のことがポイントになります。あなたが書いた文章にこれらのポイントが入っているかどうか確かめましょう。

【ポイント】

● だろぼうが逃げるのを追いかけているのだから、捕まえなくてはならないのに、足の速い男がだろぼうを追い越して走っているところ。

● 読み方のポイント

○ 登場人物によって声を変える工夫をする。
○ 会話の部分はリズムよく、実際に会話しているように話す。

[小ばなしシリーズ] 小ばなし4

年 組 氏名

このシリーズでは、江戸時代の笑話(小ばなし)を紹介します。江戸時代の笑話には、当時の世の中の様子や人々の生活、人情を題材にしたものが多く、笑えるだけでなく、当時のいろいろなことを知ることができます。

学習の目的は二つです。

ひとつは、この話を読んで、「どこがどんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」を文章で書くことです。どうしておもしろいのか、笑えるのかということを説明することは『書く力』を伸ばすことにつながります。

もう一つは、声に出して読むことです。落語家になったつもりで、声に出して読んでみましょう。そして読むときは登場人物になりきって、もしあなたのその話を聞いている人がいたら、その人を笑わすつもりで読んでみましょう。

小ばなしを楽しみながら、書く力と読む力の両方を身に付けましょう。

<課題>

次の小ばなしを読んで、

①原稿用紙に「どこがどんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」を説明する文章を書きましょう。

②読み方を工夫して、その話を聞いている人がいたら、その人が小ばなしのおもしろさに笑ってしまうような読み方を練習しましょう。

て	の	た	ま	
とたずねると、	いた？」	先生が、	「では、弘法大師はなんとおっしゃっ	
		で先生が叱ると、弟子は、	「私も弘法大師に会いにいきました」	
		翌日、授業中に弟子がいねむりをした		
		と、いいわけをしました。		
			「わしは、弘法大師に会った夢をみ	
			い、弟子に、	
			ある先生、授業中にいねむりをしてし	夢

〔小ばなしシリーズ〕 小ばなし4

年 組 氏名

学習するみなさんへ：

「どこがどんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」をわかりやすく説明することができましたか。いろんな文章を書くときには、「相手にわかりやすく」をいつも心がけるようにしましょう。原稿用紙に書いた自分の文章を友だちと読みあって、書き方を比べあったりするの也不错い学習になります。

また、聞いている人が小ばなしのおもしろさを感じるような読み方を工夫することは、相手にわかりやすく話すことにつながりますよ。

面白さを説明するときのポイント

この小ばなしが「どんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」を説明しようとするときには、次のことがらがポイントになります。あなたが書いた文章にこれらのポイントが入っているかどうか確かめましょう。

【ポイント】

● 弟子がいねむりしたいいわけに前日に先生がしたいいわけを使ったところ。
● 先生が弟子の言いわけをとちめてやる

と「では、弘法大師はなんとおっしゃっていた？」と問いつめたときに、弟子が「はい、弘法大師は、昨日先生には会わなかったとおっしゃいました」と言い

読み方のポイント

○登場人物によって声を変える工夫をする。
○会話の部分はリズムよく、実際に会話しているように話す。

[小ばなしシリーズ] 小ばなし5

年 組 氏名

このシリーズでは、江戸時代の笑話(小ばなし)を紹介します。江戸時代の笑話には、当時の世の中の様子や人々の生活、人情を題材にしたものが多く、笑えるだけでなく、当時のいろいろなことを知ることができます。

学習の目的は二つです。

ひとつは、この話を読んで、「どこがどんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」を文章で書くことです。どうしておもしろいのか、笑えるのかということを説明することは『書く力』を伸ばすことにつながります。

もう一つは、声に出して読むことです。落語家になったつもりで、声に出して読んでみましょう。そして読むときは登場人物になりきって、もしあなたのその話を聞いている人がいたら、その人を笑わすつもりで読んでみましょう。

小ばなしを楽しみながら、書く力と読む力の両方を身に付けましょう。

<課題>

次の小ばなしを読んで、

①原稿用紙に「どこがどんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」を説明する文章を書きましょう。

②読み方を工夫して、その話を聞いている人がいたら、その人が小ばなしのおもしろさに笑ってしまうような読み方を練習しましょう。

猫足

「おい、風呂があいたぞ。今、オレが出たあ
とだが、よかったら入れよ」

「じゃあ、すぐに入るよ」

男は、真っ裸になって、風呂おけに片足を入
れましたが、

「あっついっ」

と、足を引っ込めてしまいました。それをみて
いた友だちが、

「臆病な野郎だな。そんなに熱くはないはず
だぜ。がまんして、入っちゃいなよ」

というど、

「いやっ、うめてくれっ。おれは大の猫足な
んだ」

[小ばなしシリーズ] 小ばなし5

年 組 氏名

学習するみなさんへ：

「どこがどんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」をわかりやすく説明することができましたか。いろんな文章を書くときには、「相手にわかりやすく」をいつも心がけるようにしましょう。原稿用紙に書いた自分の文章を友だちと読みあって、書き方を比べあったりするの也不错い学習になります。

また、聞いている人が小ばなしのおもしろさを感じるような読み方を工夫することは、相手にわかりやすく話すことにつながりますよ。

面白さを説明するときのポイント

この小ばなしが「どんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」を説明しようとするときには、次のことがらがポイントになります。あなたが書いた文章にこれらのポイントが入っているかどうか確かめましょう。

【ポイント】

● 熱い食べ物や苦手なことを「猫舌」というが、ある男が熱い風呂に足をを入れて引っ込めたときのいいわけに、「猫舌」をもじって「猫足」と言ったところ。

読み方のポイント

○ 登場人物によって声を変える工夫をする。
○ 会話の部分はリズムよく、実際に会話しているように話す。

[小ばなしシリーズ] 小ばなし6

年 組 氏名

このシリーズでは、江戸時代の笑話(小ばなし)を紹介します。江戸時代の笑話には、当時の世の中の様子や人々の生活、人情を題材にしたものが多く、笑えるだけでなく、当時のいろいろなことを知ることができます。

学習の目的は二つです。

ひとつは、この話を読んで、「どこがどんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」を文章で書くことです。どうしておもしろいのか、笑えるのかということを説明することは『書く力』を伸ばすことにつながります。

もう一つは、声に出して読むことです。落語家になったつもりで、声に出して読んでみましょう。そして読むときは登場人物になりきって、もしあなたのその話を聞いている人がいたら、その人を笑わすつもりで読んでみましょう。

小ばなしを楽しみながら、書く力と読む力の両方を身に付けましょう。

<課題>

次の小ばなしを読んで、

①原稿用紙に「どこがどんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」を説明する文章を書きましょう。

②読み方を工夫して、その話を聞いている人がいたら、その人が小ばなしのおもしろさに笑ってしまうような読み方を練習しましょう。

占い師

りと
街角で、占い師がお客が来るのをぼんや

待っています。すると、近所の子どもたちが
通る人たちに、

「この占い師はへたで、当たらないよ」

とふれまわりました。怒った占い師が、

「おまえたちは、毎日商売のじゃまをしやが
るっ、とんでもないガキどもだっ。どこから

き
たっ

が
というど、子どもたちは、アカンベーをしな

ら、
「当ててみな」

[小ばなしシリーズ] 小ばなし6

年 組 氏名

学習するみなさんへ：

「どこがどんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」をわかりやすく説明することができましたか。いろんな文章を書くときには、「相手にわかりやすく」をいつも心がけるようにしましょう。原稿用紙に書いた自分の文章を友だちと読みあって、書き方を比べあったりするのもよい学習になります。

また、聞いている人が小ばなしのおもしろさを感じるような読み方を工夫することは、相手にわかりやすく話すことにつながりますよ。

面白さを説明するときのポイント

この小ばなしが「どんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」を説明しようとするときには、次のことがらがポイントになります。あなたが書いた文章にこれらのポイントが入っているかどうか確かめましょう。

【ポイント】

● 占い師が、「この占い師はへたで、当たらないよ」と言いふらして商売のじゃまをした子どもたちを叱ろうと、「おまえたちは、毎日商売のじゃまをしゃがむっ、とんでもないガキどもだっ。どこからきたっ」を聞いたときに、子どもたちが機転をきかして、占い師ならどこから来たか占いでわかるだろうと、さらに占い師をからかったところ。

読み方のポイント

- 登場人物によって声を変える工夫をする。
- 会話の部分はリズムよく、実際に会話しているように話す。

[小ばなしシリーズ] 小ばなし7

年 組 氏名

このシリーズでは、江戸時代の笑話(小ばなし)を紹介します。江戸時代の笑話には、当時の世の中の様子や人々の生活、人情を題材にしたものが多く、笑えるだけでなく、当時のいろいろなことを知ることができます。

学習の目的は二つです。

ひとつは、この話を読んで、「どこがどんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」を文章で書くことです。どうしておもしろいのか、笑えるのかということを説明することは『書く力』を伸ばすことにつながります。

もう一つは、声に出して読むことです。落語家になったつもりで、声に出して読んでみましょう。そして読むときは登場人物になりきって、もしあなたのその話を聞いている人がいたら、その人を笑わすつもりで読んでみましょう。

小ばなしを楽しみながら、書く力と読む力の両方を身に付けましょう。

<課題>

次の小ばなしを読んで、

①原稿用紙に「どこがどんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」を説明する文章を書きましょう。

②読み方を工夫して、その話を聞いている人がいたら、その人が小ばなしのおもしろさに笑ってしまうような読み方を練習しましょう。

(注1)湯島

ゆしま。江戸(今の東京都)の地名。
湯島天神で有名。

望遠鏡

ある男が、湯島の高台から、望遠鏡でほうぼうをながめていましたが、そのうち、望遠鏡の先端に片方の手を出して、おかしい仕草をしています。ふしぎに思った友だちが、「なにをやってるんだ?」とたずねると、

「浅草の仁王門のところに金が落ちてるんだよ。あれを拾おうと思ってな。もう、ちょっとで、手が届く……」

〔小ばなしシリーズ〕 小ばなし7

年 組 氏名

学習するみなさんへ：

「どこがどんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」をわかりやすく説明することができましたか。いろいろな文章を書くときには、「相手にわかりやすく」をいつも心がけるようにしましょう。原稿用紙に書いた自分の文章を友だちと読みあって、書き方を比べあったりするののもよい学習になります。

また、聞いている人が小ばなしのおもしろさを感じるような読み方を工夫することは、相手にわかりやすく話すことにつながりますよ。

面白さを説明するときのポイント

この小ばなしが「どんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」を説明しようとするときには、次のことがらがポイントになります。あなたが書いた文章にこれらのポイントが入っているかどうか確かめましょう。

【ポイント】

- 望遠鏡で見ている先に見えるお金を拾おうとしているところ。
- 絶対に届くはずがないのに、一生懸命拾おうとしているところとその仕草。

読み方のポイント

- 登場人物によって声を変える工夫をする。
- 会話の部分はリズムよく、実際に会話しているように話す。

[小ばなしシリーズ] 小ばなし8

年 組 氏名

このシリーズでは、江戸時代の笑話(小ばなし)を紹介します。江戸時代の笑話には、当時の世の中の様子や人々の生活、人情を題材にしたものが多く、笑えるだけでなく、当時のいろいろなことを知ることができます。

学習の目的は二つです。

ひとつは、この話を読んで、「どこがどんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」を文章で書くことです。どうしておもしろいのか、笑えるのかということを説明することは『書く力』を伸ばすことにつながります。

もう一つは、声に出して読むことです。落語家になったつもりで、声に出して読んでみましょう。そして読むときは登場人物になりきって、もしあなたのその話を聞いている人がいたら、その人を笑わすつもりで読んでみましょう。

小ばなしを楽しみながら、書く力と読む力の両方を身に付けましょう。

<課題>

次の小ばなしを読んで、

①原稿用紙に「どこがどんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」を説明する文章を書きましょう。

②読み方を工夫して、その話を聞いている人がいたら、その人が小ばなしのおもしろさに笑ってしまうような読み方を練習しましょう。

置く場所は？

「おい、日が暮れてきたから、早く火をともしよ」

すると、小僧さんは行灯に火をつけて、ウ

ウロしています。

「なにをしてるんだ？ここに置けばいい

だ」

すると、小僧さんが、「暗がりにも置いて

大丈夫ですか？」

(注1) 小僧 こぞう。ここでは、商店で使われている少年の店員。

(注2)

〔小ばなしシリーズ〕 小ばなし8

年 組 氏名

学習するみなさんへ：

「どこがどんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」をわかりやすく説明することができましたか。いろいろな文章を書くときには、「相手にわかりやすく」をいつも心がけるようにしましょう。原稿用紙に書いた自分の文章を友だちと読みあって、書き方を比べあったりするの也不错い学習になります。

また、聞いている人が小ばなしのおもしろさを感じるような読み方を工夫することは、相手にわかりやすく話すことにつながりますよ。

面白さを説明するときのポイント

この小ばなしが「どんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」を説明しようとするときには、次のことがらがポイントになります。あなたが書いた文章にこれらのポイントが入っているかどうか確かめましょう。

【ポイント】

●小僧さんが、「暗いから火をともせ」と言われているのに、「暗がりに置いても大丈夫ですか？」とまじめに質問しているところ。

読み方のポイント

- 登場人物によって声を変える工夫をする。
- 会話の部分はリズムよく、実際に会話しているように話す。

[小ばなしシリーズ] 小ばなし9

年 組 氏名

このシリーズでは、江戸時代の笑話(小ばなし)を紹介します。江戸時代の笑話には、当時の世の中の様子や人々の生活、人情を題材にしたものが多く、笑えるだけでなく、当時のいろいろなことを知ることができます。

学習の目的は二つです。

ひとつは、この話を読んで、「どこがどんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」を文章で書くことです。どうしておもしろいのか、笑えるのかということを説明することは『書く力』を伸ばすことにつながります。

もう一つは、声に出して読むことです。落語家になったつもりで、声に出して読んでみましょう。そして読むときは登場人物になりきって、もしあなたのその話を聞いている人がいたら、その人を笑わすつもりで読んでみましょう。

小ばなしを楽しみながら、書く力と読む力の両方を身に付けましょう。

<課題>

次の小ばなしを読んで、

①原稿用紙に「どこがどんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」を説明する文章を書きましょう。

②読み方を工夫して、その話を聞いている人がいたら、その人が小ばなしのおもしろさに笑ってしまうような読み方を練習しましょう。

レ 目

が勝つつもりだったが、相手が勝たせてく
は、向こうが負けなかった。三局目は、オ
「一局目は、オレが勝たなかった。二局
とたずねられると、

と、答えました。
「で、勝敗はどうだった？」

「三局」

と、友だちにたずねられた男は、
「この間は、何局指したんだい？」

いました。数日後、

将棋じまんの男が、三番続けて負けてし

負けず嫌い

ま

[小ばなしシリーズ] 小ばなし9

年 組 氏名

学習するみなさんへ：

「どこがどんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」をわかりやすく説明することができましたか。いろんな文章を書くときには、「相手にわかりやすく」をいつも心がけるようにしましょう。原稿用紙に書いた自分の文章を友だちと読みあって、書き方を比べあったりするの也不错い学習になります。

また、聞いている人が小ばなしのおもしろさを感じるような読み方を工夫することは、相手にわかりやすく話すことにつながりますよ。

面白さを説明するときのポイント

この小ばなしが「どんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」を説明しようとするときには、次のことがらがポイントになります。あなたが書いた文章にこれらのポイントが入っているかどうか確かめましょう。

【ポイント】

●将棋じまんの男が、三番続けて負けたということを絶対に認めたくないのに、「負け」という言葉を絶対に使おうとしないで、「一局目は、オレが勝たなかった。二局目は、向こうが負けなかった。三局目は、オレが勝つつもりだったが、相手が勝たせてくれなかった」と、負け読み方のポイント

- 登場人物によって声を変える工夫をする。
- 会話の部分はリズムよく、実際に会話しているように話す。

[小ばなしシリーズ] 小ばなし10

年 組 氏名

このシリーズでは、江戸時代の笑話(小ばなし)を紹介します。江戸時代の笑話には、当時の世の中の様子や人々の生活、人情を題材にしたものが多く、笑えるだけでなく、当時のいろいろなことを知ることができます。

学習の目的は二つです。

ひとつは、この話を読んで、「どこがどんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」を文章で書くことです。どうしておもしろいのか、笑えるのかということを説明することは『書く力』を伸ばすことにつながります。

もう一つは、声に出して読むことです。落語家になったつもりで、声に出して読んでみましょう。そして読むときは登場人物になりきって、もしあなたのその話を聞いている人がいたら、その人を笑わすつもりで読んでみましょう。

小ばなしを楽しみながら、書く力と読む力の両方を身に付けましょう。

<課題>

次の小ばなしを読んで、

①原稿用紙に「どこがどんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」を説明する文章を書きましょう。

②読み方を工夫して、その話を聞いている人がいたら、その人が小ばなしのおもしろさに笑ってしまうような読み方を練習しましょう。

的(まと)の神様

ある武将が戦いで負けそうになったとき、どこからともなく神様があらわれて、助け

てくれました。

武将が神様にお礼の言葉を言ったあとで、

「ところで、あなたは何の神様ですか？」

か？

とたずねると、

「わしは的の神様じゃ」

と答えました。

「的の神様が、どうして私を助けてくれるのですか？」

と、武将がたずねると、

[小ばなしシリーズ] 小ばなし10

年 組 氏名

学習するみなさんへ：

「どこがどんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」をわかりやすく説明することができましたか。いろんな文章を書くときには、「相手にわかりやすく」をいつも心がけるようにしましょう。原稿用紙に書いた自分の文章を友だちと読みあって、書き方を比べあったりするののもよい学習になります。

また、聞いている人が小ばなしのおもしろさを感じるような読み方を工夫することは、相手にわかりやすく話すことにつながりますよ。

面白さを説明するときのポイント

この小ばなしが「どんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」を説明しようとするときには、次のことがらがポイントになります。あなたが書いた文章にこれらのポイントが入っているかどうか確かめましょう。

【ポイント】

● 的の神様が、助けたある武将にそのわけを聞かれて「おまえは弓の訓練をやっても、一度もわしを射たことがないからな。そのお礼じゃ」と答えたところ。
つまり、その武将は、弓がへたで一度も的を射たことがなかったということ。
● 弓がへたで今までの的を射ることができな

読み方のポイント

○ 登場人物によって声を変える工夫をする。
○ 会話の部分はリズムよく、実際に会話しているように話す。

[小ばなしシリーズ パートⅡ] 小ばなし11

年 組 氏名

このシリーズでは、江戸時代の笑話(小ばなし)を紹介します。江戸時代の笑話には、当時の世の中の様子や人々の生活、人情を題材にしたものが多く、笑えるだけでなく、当時のいろいろなことを知ることができます。

学習の目的は二つです。

ひとつは、この話を読んで、「どこがどんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」を文章で書くことです。どうしておもしろいのか、笑えるのかということを説明することは『書く力』を伸ばすことにつながります。

もう一つは、声に出して読むことです。落語家になったつもりで、声に出して読んでみましょう。そして読むときは登場人物になりきって、もしあなたのその話を聞いている人がいたら、その人を笑わすつもりで読んでみましょう。

小ばなしを楽しみながら、書く力と読む力の両方を身に付けましょう。

<課題>

次の小ばなしを読んで、

①原稿用紙に「どこがどんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」を説明する文章を書きましょう。

②読み方を工夫して、その話を聞いている人がいたら、その人が小ばなしのおもしろさに笑ってしまうような読み方を練習しましょう。

鼻歌

ある親子が花見に出かけ、夕方
帰ってきました。

父親がよっぱらって、鼻歌を歌

いながら家の前を通り過ぎてしま

ったので、息子が、

「おとっつあん、家はこっちですよ」

というと、父親は、

「今入ると、歌があまる」

[小ばなしシリーズ パートⅡ] 小ばなし11

年 組 氏名

学習するみなさんへ：

「どこがどんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」をわかりやすく説明することができましたか。いろんな文章を書くときには、「相手にわかりやすく」をいつも心がけるようにしましょう。原稿用紙に書いた自分の文章を友だちと読みあって、書き方を比べあったりするのもよい学習になります。

また、聞いている人が小ばなしのおもしろさを感じるような読み方を工夫することは、相手にわかりやすく話すことにつながりますよ。

面白さを説明するときのポイント

この小ばなしが「どんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」を説明しようとするときには、次のことがらがポイントになります。あなたが書いた文章にこれらのポイントが入っているかどうか確かめましょう。

【ポイント】

● 鼻歌は何かのついでに歌うものなのに、酔っぱらった父親が、その鼻歌を歌い切ろうと家に入らずに通り過ぎているところ。

読み方のポイント

○ 登場人物によって声を変える工夫をする。
○ 会話の部分はリズムよく、実際に会話しているように話す。

[小ばなしシリーズ パートⅡ] 小ばなし12

年 組 氏名

このシリーズでは、江戸時代の笑話(小ばなし)を紹介します。江戸時代の笑話には、当時の世の中の様子や人々の生活、人情を題材にしたものが多く、笑えるだけでなく、当時のいろいろなことを知ることができます。

学習の目的は二つです。

ひとつは、この話を読んで、「どこがどんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」を文章で書くことです。どうしておもしろいのか、笑えるのかということを説明することは『書く力』を伸ばすことにつながります。

もう一つは、声に出して読むことです。落語家になったつもりで、声に出して読んでみましょう。そして読むときは登場人物になりきって、もしあなたのその話を聞いている人がいたら、その人を笑わすつもりで読んでみましょう。

小ばなしを楽しみながら、書く力と読む力の両方を身に付けましょう。

<課題>

次の小ばなしを読んで、

①原稿用紙に「どこがどんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」を説明する文章を書きましょう。

②読み方を工夫して、その話を聞いている人がいたら、その人が小ばなしのおもしろさに笑ってしまうような読み方を練習しましょう。

つ

子どもたちが集まって話をしている
と、ひとりが、

「一つから、九つまでみんな
『つ』があるのに、十に『つ]
がないのはどうしてだろう？」

と、いいだしました。すると、別の
子どもが、

「五つに『つ』がよけいにある
からじゃないか」

〔小ばなしシリーズ パートⅡ〕 小ばなし12

年 組 氏名

学習するみなさんへ：

「どこがどんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」をわかりやすく説明することができましたか。いろいろな文章を書くときには、「相手にわかりやすく」をいつも心がけるようにしましょう。原稿用紙に書いた自分の文章を友だちと読みあって、書き方を比べあったりするのもよい学習になります。

また、聞いている人が小ばなしのおもしろさを感じるような読み方を工夫することは、相手にわかりやすく話すことにつながりますよ。

面白さを説明するときのポイント

この小ばなしが「どんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」を説明しようとするときには、次のことがらがポイントになります。あなたが書いた文章にこれらのポイントが入っているかどうか確かめましょう。

【ポイント】

●別の子どもが、「五つ」は「いつつ」と読むので、「つ」が二つ入っていることに気づき、「十に」"つ"がないのはどうしてだろう？

という疑問に、機転(きてん)を働かして切り返したところ。

●「一つから、九つまでみんな”つ”があるのに、十に”つ”がない」ことに気づいたところ(もおもしろい)。

(注)機転 読み方のポイント

○登場人物によって声を変える工夫をする。
○会話の部分はリズムよく、実際に会話しているように話す。

[小ばなしシリーズ パートⅡ] 小ばなし13

年 組 氏名

このシリーズでは、江戸時代の笑話(小ばなし)を紹介します。江戸時代の笑話には、当時の世の中の様子や人々の生活、人情を題材にしたものが多く、笑えるだけでなく、当時のいろいろなことを知ることができます。

学習の目的は二つです。

ひとつは、この話を読んで、「どこがどんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」を文章で書くことです。どうしておもしろいのか、笑えるのかということを説明することは『書く力』を伸ばすことにつながります。

もう一つは、声に出して読むことです。落語家になったつもりで、声に出して読んでみましょう。そして読むときは登場人物になりきって、もしあなたのその話を聞いている人がいたら、その人を笑わすつもりで読んでみましょう。

小ばなしを楽しみながら、書く力と読む力の両方を身に付けましょう。

<課題>

次の小ばなしを読んで、

①原稿用紙に「どこがどんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」を説明する文章を書きましょう。

②読み方を工夫して、その話を聞いている人がいたら、その人が小ばなしのおもしろさに笑ってしまうような読み方を練習しましょう。

すきま風

ある寒い朝のこと。

戸や障子を閉め切っていて、どこからか、入ってきます。

「おいっ、この風はどこから入ってくるんだ？」

とたずねると、

「二階からです」

「だったら、風がこないようにハ

シゴをはずしておけ」

[小ばなしシリーズ パートⅡ] 小ばなし13

年 組 氏名

学習するみなさんへ：

「どこがどんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」をわかりやすく説明することができましたか。いろんな文章を書くときには、「相手にわかりやすく」をいつも心がけるようにしましょう。原稿用紙に書いた自分の文章を友だちと読みあって、書き方を比べあったりするのもよい学習になります。

また、聞いている人が小ばなしのおもしろさを感じるような読み方を工夫することは、相手にわかりやすく話すことにつながりますよ。

面白さを説明するときのポイント

この小ばなしが「どんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」を説明しようとするときには、次のことがらがポイントになります。あなたが書いた文章にこれらのポイントが入っているかどうか確かめましょう。

【ポイント】

● 風が二階から入ってくるという話に対して、二階から下りてこないようにハシゴを外しておくと切り返したところ。

読み方のポイント

○ 登場人物によって声を変える工夫をする。
○ 会話の部分はリズムよく、実際に会話しているように話す。

[小ばなしシリーズ パートⅡ] 小ばなし14

年 組 氏名

このシリーズでは、江戸時代の笑話(小ばなし)を紹介します。江戸時代の笑話には、当時の世の中の様子や人々の生活、人情を題材にしたものが多く、笑えるだけでなく、当時のいろいろなことを知ることができます。

学習の目的は二つです。

ひとつは、この話を読んで、「どこがどんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」を文章で書くことです。どうしておもしろいのか、笑えるのかということを説明することは『書く力』を伸ばすことにつながります。

もう一つは、声に出して読むことです。落語家になったつもりで、声に出して読んでみましょう。そして読むときは登場人物になりきって、もしあなたのその話を聞いている人がいたら、その人を笑わすつもりで読んでみましょう。

小ばなしを楽しみながら、書く力と読む力の両方を身に付けましょう。

<課題>

次の小ばなしを読んで、

①原稿用紙に「どこがどんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」を説明する文章を書きましょう。

②読み方を工夫して、その話を聞いている人がいたら、その人が小ばなしのおもしろさに笑ってしまうような読み方を練習しましょう。

月日がたつのは……

星と月と太陽がいっしょに旅に出ました。

宿屋に泊まり、次の朝、星が目をさますと、月も太陽もいません。

宿屋の者に、

「月と太陽はどうした？」

とたずねると、

「月様も太陽様も、暗いうちにおたちになりました。」

とおしえてくれました。すると、

星は、

[小ばなしシリーズ パートⅡ] 小ばなし14

年 組 氏名

学習するみなさんへ：

「どこがどんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」をわかりやすく説明することができましたか。いろんな文章を書くときには、「相手にわかりやすく」をいつも心がけるようにしましょう。原稿用紙に書いた自分の文章を友だちと読みあって、書き方を比べあったりするのもよい学習になります。

また、聞いている人が小ばなしのおもしろさを感じるような読み方を工夫することは、相手にわかりやすく話すことにつながりますよ。

面白さを説明するときのポイント

確
この小ばなしが「どんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」を説明しようとするときには、次のことがらがポイントになります。あなたが書いた文章にこれらのポイントが入っているかどうか確かめましょう。

【ポイント】

●「時が過ぎ去っていくのは早く感じるものだ」という意味の「月日がたつのは早い」と、話の中の月と日の行動を掛けあわせて表現しているところ。

読み方のポイント

○登場人物によって声を変える工夫をする。
○会話の部分はリズムよく、実際に会話しているように話す。

[小ばなしシリーズ パートⅡ] 小ばなし15

年 組 氏名

このシリーズでは、江戸時代の笑話(小ばなし)を紹介します。江戸時代の笑話には、当時の世の中の様子や人々の生活、人情を題材にしたものが多く、笑えるだけでなく、当時のいろいろなことを知ることができます。

学習の目的は二つです。

ひとつは、この話を読んで、「どこがどんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」を文章で書くことです。どうしておもしろいのか、笑えるのかということを説明することは『書く力』を伸ばすことにつながります。

もう一つは、声に出して読むことです。落語家になったつもりで、声に出して読んでみましょう。そして読むときは登場人物になりきって、もしあなたのその話を聞いている人がいたら、その人を笑わすつもりで読んでみましょう。

小ばなしを楽しみながら、書く力と読む力の両方を身に付けましょう。

<課題>

次の小ばなしを読んで、

①原稿用紙に「どこがどんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」を説明する文章を書きましょう。

②読み方を工夫して、その話を聞いている人がいたら、その人が小ばなしのおもしろさに笑ってしまうような読み方を練習しましょう。

どっちが得？

ハつぁんと熊さんが、二人で酒を作って売ろうということになりました。

「まず、金を用意しなくちゃなあ。

どうする？」

ハつぁんが聞くと、熊さんは、

「なーに、金なんかいらさないさ。

おまえは米を出せよ。オレが水を

出すから。で、酒ができたらおま

えは米のカスを取れよ。オレは、

水をもらうから」

〔小ばなしシリーズ パートⅡ〕 小ばなし15

年 組 氏名

学習するみなさんへ：

「どこがどんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」をわかりやすく説明することができましたか。いろんな文章を書くときには、「相手にわかりやすく」をいつも心がけるようにしましょう。原稿用紙に書いた自分の文章を友だちと読みあって、書き方を比べあったりするのもよい学習になります。

また、聞いている人が小ばなしのおもしろさを感じるような読み方を工夫することは、相手にわかりやすく話すことにつながりますよ。

面白さを説明するときのポイント

この小ばなしが「どんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」を説明しようとするときには、次のことがらがポイントになります。あなたが書いた文章にこれらのポイントが入っているかどうか確かめましょう。

【ポイント】

●（米のカスは酒を造ったときにできる残り物で、熊さんがいう「水」が本当は酒なのに）
ずるがしこい熊さんが八つあんをだまして、相手に米を出させ、自分はお金のかからない水を出して酒を造って、一人だけいい思いをしようと考えたところ。

読み方のポイント

○登場人物によって声を変える工夫をする。
○会話の部分はリズムよく、実際に会話しているように話す。

[小ばなしシリーズ パートⅡ] 小ばなし16

年 組 氏名

このシリーズでは、江戸時代の笑話(小ばなし)を紹介します。江戸時代の笑話には、当時の世の中の様子や人々の生活、人情を題材にしたものが多く、笑えるだけでなく、当時のいろいろなことを知ることができます。

学習の目的は二つです。

ひとつは、この話を読んで、「どこがどんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」を文章で書くことです。どうしておもしろいのか、笑えるのかということを説明することは『書く力』を伸ばすことにつながります。

もう一つは、声に出して読むことです。落語家になったつもりで、声に出して読んでみましょう。そして読むときは登場人物になりきって、もしあなたのその話を聞いている人がいたら、その人を笑わすつもりで読んでみましょう。

小ばなしを楽しみながら、書く力と読む力の両方を身に付けましょう。

<課題>

次の小ばなしを読んで、

①原稿用紙に「どこがどんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」を説明する文章を書きましょう。

②読み方を工夫して、その話を聞いている人がいたら、その人が小ばなしのおもしろさに笑ってしまうような読み方を練習しましょう。

鯛では不足？

友だちが釣りに行って、五十両も
の金が入った箱を釣ったという話を
聞いた男、

(オレも五十両を釣ってこよう)

と、友だちに五十両を釣った場所を
聞いて、さっそく出かけました。

沖に出て、しばらく釣り糸をたれ
ていると、大きな鯛が釣れましたが、
男は針を抜いて、鯛を海に放り投げ
ながら、

「おまえさんには用がない」

〔小ばなしシリーズ パートⅡ〕 小ばなし16

年 組 氏名

学習するみなさんへ：

「どこがどんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」をわかりやすく説明することができましたか。いろんな文章を書くときには、「相手にわかりやすく」をいつも心がけるようにしましょう。原稿用紙に書いた自分の文章を友だちと読みあって、書き方を比べあったりするのもよい学習になります。

また、聞いている人が小ばなしのおもしろさを感じるような読み方を工夫することは、相手にわかりやすく話すことにつながりますよ。

面白さを説明するときのポイント

この小ばなしが「どんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」を説明しようとするときには、次のことがらがポイントになります。あなたが書いた文章にこれらのポイントが入っているかどうか確かめましょう。

【ポイント】

● 海に釣りに行って鯛が釣れたらすごくいいこと
 なのに、五十両の話聞いた男が鯛などに目もくれないで、「おまえさんには用がない」と言
 って、海に放り投げるところ。

読み方のポイント

○登場人物によって声を変える工夫をする。
 ○会話の部分はリズムよく、実際に会話しているように話す。

[小ばなしシリーズ パートⅡ] 小ばなし17

年 組 氏名

このシリーズでは、江戸時代の笑話(小ばなし)を紹介します。江戸時代の笑話には、当時の世の中の様子や人々の生活、人情を題材にしたものが多く、笑えるだけでなく、当時のいろいろなことを知ることができます。

学習の目的は二つです。

ひとつは、この話を読んで、「どこがどんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」を文章で書くことです。どうしておもしろいのか、笑えるのかということを説明することは『書く力』を伸ばすことにつながります。

もう一つは、声に出して読むことです。落語家になったつもりで、声に出して読んでみましょう。そして読むときは登場人物になりきって、もしあなたのその話を聞いている人がいたら、その人を笑わすつもりで読んでみましょう。

小ばなしを楽しみながら、書く力と読む力の両方を身に付けましょう。

<課題>

次の小ばなしを読んで、

①原稿用紙に「どこがどんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」を説明する文章を書きましょう。

②読み方を工夫して、その話を聞いている人がいたら、その人が小ばなしのおもしろさに笑ってしまうような読み方を練習しましょう。

風呂

山奥に住む男が、町へ出てきたとき、
「冬にこの風呂に入れば、体があたた
まっていよいよ」

と、人にすすめられ、買って帰りました。
村の人間はだれも、風呂を見たことが
ないので、みんな男の家へ見物にやっ
てきました。

は、
男が風呂に入っているのを見た村人

「どうだい、風呂というものはいいも
のかね？」

と、男にたずねました。すると男は、
「なかなかいいものだが、わくまで
が冷たくてなあ……」

〔小ばなしシリーズ パートⅡ〕 小ばなし17

年 組 氏名

学習するみなさんへ：

「どこがどんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」をわかりやすく説明することができましたか。いろんな文章を書くときには、「相手にわかりやすく」をいつも心がけるようにしましょう。原稿用紙に書いた自分の文章を友だちと読みあって、書き方を比べあったりするのもよい学習になります。

また、聞いている人が小ばなしのおもしろさを感じるような読み方を工夫することは、相手にわかりやすく話すことにつながりますよ。

面白さを説明するときのポイント

この小ばなしが「どんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」を説明しようとするときには、次のことがらがポイントになります。あなたが書いた文章にこれらのポイントが入っているかどうか確かめましょう。

【ポイント】

● 風呂を買った男が、「風呂はわかしてから入るものだ」ということを知らなかったところ。
また、村の人間みんなが男と同じようにそのことを知らなかったところ。

読み方のポイント

○ 登場人物によって声を変える工夫をする。
○ 会話の部分はリズムよく、実際に会話しているように話す。

[小ばなしシリーズ パートⅡ] 小ばなし18

年 組 氏名

このシリーズでは、江戸時代の笑話(小ばなし)を紹介します。江戸時代の笑話には、当時の世の中の様子や人々の生活、人情を題材にしたものが多く、笑えるだけでなく、当時のいろいろなことを知ることができます。

学習の目的は二つです。

ひとつは、この話を読んで、「どこがどんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」を文章で書くことです。どうしておもしろいのか、笑えるのかということの説明することは『書く力』を伸ばすことにつながります。

もう一つは、声に出して読むことです。落語家になったつもりで、声に出して読んでみましょう。そして読むときは登場人物になりきって、もしあなたのその話を聞いている人がいたら、その人を笑わすつもりで読んでみましょう。

小ばなしを楽しみながら、書く力と読む力の両方を身に付けましょう。

<課題>

次の小ばなしを読んで、

①原稿用紙に「どこがどんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」を説明する文章を書きましょう。

②読み方を工夫して、その話を聞いている人がいたら、その人が小ばなしのおもしろさに笑ってしまうような読み方を練習しましょう。

泳ぎの指南

あるところに『泳ぎ指南所』という看板を見つけた男。さっそく入ってみると、師

匠が出てきて、

「では、はだかになりなさい。絶対におぼれない泳ぎを教えて進ぜよう」

と、いいます。

男がいわれるままにはだかになると、師

匠は男の首筋と肩のあいだに線を引きました。

男が、

「これはなにかのまじないですか？」

とたずねると、師匠は、

『これより深いところには、入ってはなら

ぬという目印じゃ』

[小ばなしシリーズ パートⅡ] 小ばなし18

年 組 氏名

学習するみなさんへ：

「どこがどんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」をわかりやすく説明することができましたか。いろんな文章を書くときには、「相手にわかりやすく」をいつも心がけるようにしましょう。原稿用紙に書いた自分の文章を友だちと読みあって、書き方を比べあったりするのもよい学習になります。

また、聞いている人が小ばなしのおもしろさを感じるような読み方を工夫することは、相手にわかりやすく話すことにつながりますよ。

面白さを説明するときのポイント

確
この小ばなしが「どんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」を説明しようとするときには、次のことがらがポイントになります。あなたが書いた文章にこれらのポイントが入っているかどうか確かめましょう。

【ポイント】

な

●首筋と肩の間よりも深いところに入っていない限りおぼれることはないのに、師匠がもっともらしく教えているところ。

(注) 指南

教え導くこと。また、教え導くことを指す場合もある。

読み方のポイント

○登場人物によって声を変える工夫をする。
○会話の部分はリズムよく、実際に会話しているように話す。

[小ばなしシリーズ パートⅡ] 小ばなし19

年 組 氏名

このシリーズでは、江戸時代の笑話(小ばなし)を紹介します。江戸時代の笑話には、当時の世の中の様子や人々の生活、人情を題材にしたものが多く、笑えるだけでなく、当時のいろいろなことを知ることができます。

学習の目的は二つです。

ひとつは、この話を読んで、「どこがどんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」を文章で書くことです。どうしておもしろいのか、笑えるのかということを説明することは『書く力』を伸ばすことにつながります。

もう一つは、声に出して読むことです。落語家になったつもりで、声に出して読んでみましょう。そして読むときは登場人物になりきって、もしあなたのその話を聞いている人がいたら、その人を笑わすつもりで読んでみましょう。

小ばなしを楽しみながら、書く力と読む力の両方を身に付けましょう。

<課題>

次の小ばなしを読んで、

①原稿用紙に「どこがどんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」を説明する文章を書きましょう。

②読み方を工夫して、その話を聞いている人がいたら、その人が小ばなしのおもしろさに笑ってしまうような読み方を練習しましょう。

欲しいものは……

ある男が仙人になった友だちと、三十年ぶりに出会いました。

別れるときに友だちが、

「おまえにみやげをやるう」

と、そばにある小石を指でさすと、小石はた

ちまち金になりました。

ところが、

「そんなものはいらない」

と、男は即座にことわります。それならばと、

友だちは、もっと大きな石を金に変えました

が、男はそれもことわります。

「いったいおまえは、なにが欲しいんだ？」

と、友だちがたずねると、男は、

〔小ばなしシリーズ パートⅡ〕 小ばなし19

年 組 氏名

学習するみなさんへ：

「どこがどんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」をわかりやすく説明することができましたか。いろんな文章を書くときには、「相手にわかりやすく」をいつも心がけるようにしましょう。原稿用紙に書いた自分の文章を友だちと読みあって、書き方を比べあったりするのもよい学習になります。

また、聞いている人が小ばなしのおもしろさを感じるような読み方を工夫することは、相手にわかりやすく話すことにつながりますよ。

面白さを説明するときのポイント

この小ばなしが「どんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」を説明しようとするときには、次のことがらがポイントになります。あなたが書いた文章にこれらのポイントが入っているかどうか確かめましょう。

【ポイント】

- 男がどこまでも欲が深く厚かましいところ。
- 欲が深く厚かましい男が、仙人の指さえ手にするものができれば何でも金に変えられて、自分ものになると勘違いしているところ。

読み方のポイント

- 登場人物によって声を変える工夫をする。
- 会話の部分はリズムよく、実際に会話しているように話す。

[小ばなしシリーズ パートⅡ] 小ばなし20

年 組 氏名

このシリーズでは、江戸時代の笑話(小ばなし)を紹介します。江戸時代の笑話には、当時の世の中の様子や人々の生活、人情を題材にしたものが多く、笑えるだけでなく、当時のいろいろなことを知ることができます。

学習の目的は二つです。

ひとつは、この話を読んで、「どこがどんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」を文章で書くことです。どうしておもしろいのか、笑えるのかということの説明することは『書く力』を伸ばすことにつながります。

もう一つは、声に出して読むことです。落語家になったつもりで、声に出して読んでみましょう。そして読むときは登場人物になりきって、もしあなたのその話を聞いている人がいたら、その人を笑わすつもりで読んでみましょう。

小ばなしを楽しみながら、書く力と読む力の両方を身に付けましょう。

<課題>

次の小ばなしを読んで、

①原稿用紙に「どこがどんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」を説明する文章を書きましょう。

②読み方を工夫して、その話を聞いている人がいたら、その人が小ばなしのおもしろさに笑ってしまうような読み方を練習しましょう。

うなぎの蒲焼き

ある男が、うなぎ屋の前でおいをかいできては、それをおかずにしてご飯を食べていました。数日後、うなぎ屋の主人が男の家へ請求書を持ってやってきました。男が、

「オレは、おまえさんに金を借りたおぼえはないが……」

というと、うなぎ屋の主人は、

「これは蒲焼きのかぎ貸だ。おまえさんはうちの蒲焼きのにおいをかいではご飯を食べているようだから、こっちも食べさせた気になって、金を取りにきた」

すると男は、お金を板の間に放り投げて、「音だけ聞いて帰ってくれ。お金を受け取った気になつたらう」

[小ばなしシリーズ パートⅡ] 小ばなし20

年 組 氏名

学習するみなさんへ：

「どこがどんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」をわかりやすく説明することができましたか。いろんな文章を書くときには、「相手にわかりやすく」をいつも心がけるようにしましょう。原稿用紙に書いた自分の文章を友だちと読みあって、書き方を比べあったりするのもよい学習になります。

また、聞いている人が小ばなしのおもしろさを感じるような読み方を工夫することは、相手にわかりやすく話すことにつながりますよ。

面白さを説明するときのポイント

この小ばなしが「どんなふうにおもしろいのか」、「なぜ笑えるのか」を説明しようとするときには、次のことがらがポイントになります。あなたが書いた文章にこれらのポイントが入っているかどうか確かめましょう。

【ポイント】

● 蒲焼きの「かぎ賃」を請求された男がとんちをきかして、「におい」に対して「音」で支払うとあって、うなぎ屋の主人を逆にやり込めるところ。

読み方のポイント

○登場人物によって声を変える工夫をする。
○会話の部分はリズムよく、実際に会話しているように話す。